

2021年度

# 事業報告書

2021年1月1日から

2021年12月31日まで

公益財団法人 世界こども財団

本法人の事業内容は、公益財団法人世界こども財団 定款第3条に基づき、下記の通り定義する。

### 第3条（目的）

この法人は、日本国内及び世界の国々の中で、さまざまな困難を抱えながらも、その将来を必死に切り拓こうと努めている子どもたちや青少年を支援し、かつあるべき共生社会の人材として自立できるよう、その健全な育成に寄与することを目的とする。

### 第4条（事業）

- 1 この法人は、前条の目的を達するため、次の事業を行う。
  - （1）被災地の子どもたちや青少年への支援事業
  - （2）子どもたちや青少年の教育・保健衛生・医療環境の向上のための支援事業
  - （3）子どもたちや青少年の国際相互理解の促進と健全な育成のための支援事業
  - （4）子どもたちや青少年の自立支援事業
  - （5）前号に掲げるもののほか、この財団の目的を達成するために必要な事業
- 2 前項の事業については、国内及び海外において行うものとする。

# I 被災地の子どもたちや青少年への支援事業

## 1 方針

震災から10年目を迎え変わりつつある被災地のニーズを汲み取りながら、福島県相馬市・南相馬市の子どもたちや青少年の心身の健康を維持するためのカウンセリングやスポーツ交流を他の支援者とともに協働して実施する。

また、東日本大震災以外にも、自然災害で被災した地域への緊急支援も可能な限り実施していく。

## 2 支援事業の概要

### (1) カウンセリング

経緯：復興に向け被災地は大きく変貌しようとしている。その環境変化の中で心理的に不安定になる小中高校の児童、生徒、教員および保護者等が見られることから、彼らを対象としたカウンセリングを実施して欲しい旨要請を受けた。本要請は、世界こども財団の活動趣旨に一致することから、他の支援者（相馬市・南相馬市教育委員会、NPO 法人相馬フォロアーチーム、NPO 法人星槎教育研究所および学校法人国際学園）とともに協働し、2011年度より福島県相馬市・南相馬市・新地町において継続的に支援を実施している。

- ・ 2021年度においても南相馬市から継続の要請を受けていたため、支援を継続した。3月末まで継続、その後は南相馬市との協議により決定。
- ・ 世界こども財団は、本カウンセリングに関する、支援対象者について学校および教育委員会との調整、カウンセリングの実施に関する企画・コーディネートおよび支援機関等への活動支援（移動・宿泊等の支援）および一部経費負担等の支援活動を行った。

### カウンセリングの概要

支援内容	支援対象地区	支援対象者	支援日程
カウンセリング	福島県南相馬市	市内全ての中学校および特定の小学校の児童・生徒・教員・保護者	7名体制、年間24回(月2回×12ヶ月)実施。一部の学校は年間で48回実施(月4日×12ヶ月)
備考	【支援者（機関）】 南相馬市教育委員会、NPO 法人星槎教育研究所、学校法人国際学園 【実績】 ・ 2011年度より継続実施 ・ 2021年度までの南相馬市内でのカウンセリング累計数は、 生徒：4,587件、教員：545件、保護者604件		

### (2) スポーツ交流

経緯：被災地である福島県相馬市より、子どもたちを元気にするため、子どもサッカースクールおよびサッカー指導講習会の開催についての要請がきている。

本開催要請は、世界こども財団の活動の趣旨に一致することから他の支援者（神奈川県サッカー協会、相馬市教育委員会、NPO 法人ドリームサッカー相馬、学生ボランティア、学校法人国際学園）とともに協働して、2011年度より継続的に実施している。世界こども財団は、本スポーツ交流等に関する参加者についての教育委員会との調整、開催実施に関する企画・コーディネート、支援機関等の活動支援（移動・宿泊等支援）および一部経費負担等の支援活動を行っている。

- ・ 2021年度については1月に実施予定であったが、新型コロナウイルスの感染拡大を受け、止む

を得ず中止となった。ただし関係者との協議は継続しており、2022年度は1月に開催の予定。

#### スポーツ交流の概要

支援内容	支援対象地区	支援対象者	支援日程等
・子どもサッカー大会 ・サッカースクール	福島県相馬市	・小中学校の児童・生徒 ・青年等	1月開催予定 →コロナ禍で中止
備 考	<b>【協働者（機関）】</b> 神奈川県サッカー協会、相馬市教育委員会、NPO 法人ドリームサッカー相馬、学生ボランティア（東京大学、横浜国立大学、神奈川大学等）、学校法人国際学園 <b>【実績】</b> 2011年度より継続実施		

## II 子どもたちや青少年の教育・保健衛生・医療環境の向上のための支援事業

### 1 方針

発展途上国の子どもたちや青少年の教育・保健衛生・医療環境を改善すべく、現地の各関係機関と連携し活動を実施する。また、スポーツを通じた支援も行い現地の子どもたちや青少年の育成に加え、支援国のスポーツ文化の振興・発展に寄与する。

### 2 支援事業の概要

#### (1) エリトリア国：Unicef エリトリアとの協働による現地学校およびコミュニティ支援

経緯：2018年1月のエリトリア国訪問時に、Unicef からの依頼を受け協議を実施。Unicef エリトリアが計画している現地小学校を拠点とした幼児期教育、水と衛生、スクールクラブ活動の統合プロジェクトにおいて、スポーツの要素も含め世界こども財団との協働の要請を受けた。その後、2019年5月に現地を訪問した際、このプログラムの具体的な工程計画について確認を行い、10月に第一次予算を送金し、Unicef 選定のモデル校にてプログラムが開始している。

- ・ 2020年度、並びに2021年度は、新型コロナウイルスの感染拡大により、現地のUnicef 事務所が活動を停止、本プログラムも進行できない状況にあった。2022年度は現地と連携をとりながら、プログラムの再開、継続と発展に向けて協議を進めていく。
- ・ 国連開発計画（UNDP）アフリカ局とも連携を深めており、Unicef との協働実績をもとに、アフリカにおけるプログラム実施を具体化するべく協議を行う。

#### Unicef エリトリアとの協働による現地学校およびコミュニティ支援

支援内容	支援対象地区	支援対象者	支援日程
現地学校およびコミュニティ支援	エリトリア国	Unicef 選定のモデル校および周辺コミュニティ	コロナ禍で具体的支援に至らず。協議継続。
備 考	<b>【協働者（機関）】</b> Unicef エリトリア		

(2) エリトリア国：スポーツアカデミーの運営支援

経緯：2017年11月、エリトリア陸上連盟の副会長来日時に、これから開設するエリトリアスポーツアカデミーへの運営支援、および関連施設の補修への支援依頼があった。このアカデミーの開設は、エリトリアの子どもたち、青少年に安全・安心な環境で教育を展開することを目的とする。関連施設の補修は、エリトリア唯一の陸上競技トラックの破損がひどくその修繕については2018年度に実施済みである。

- ・ 2021年度は、2020年度同様、先方のプランが未確定および新型コロナウイルスの影響で現地渡航が困難となったため具体的な支援には至らなかった。ただし、2021年7月、東京オリンピック大会期間中に来日した同国文化・スポーツ庁長官とは東京で会議を持ち、状況の確認を行った。
- ・ 2022年度は、引き続き文化・スポーツ庁と協議を重ね、継続事業とする。

スポーツアカデミーの運営支援の概要

支援内容	支援対象地区	支援対象者	支援日程
スポーツアカデミー 運営支援	エリトリア (文化・スポーツ庁)	首都アスマラを 中心とする青少年	コロナ禍で具体的支援に至らず。協議継続。
備考	【協働者（機関）】 エリトリア国文化スポーツ庁、同陸上競技連盟、学校法人国際学園		

(3) ブータン王国：スポーツスクールの運営支援

経緯：2019年10月、ブータンオリンピック委員会、並びに教育省との共同プロジェクトチームより、ブータン王国にて2020年に開校予定のスポーツスクールへの運営支援、および星槎グループ並びに日本国内公私立高校への視察・調査における協力および支援の依頼があった。このスポーツスクール開設の主な目的は、アスリート達が特定の競技に早期から取り組み、日常的に練習が可能となることによる国際競技力向上および安定維持である。これにより、将来オリンピックをはじめとする国際競技大会で活躍できる選手を恒常的に育成することが可能になる。ジュニア期におけるアスリートの発育・発達に合わせ、トップアスリートとして必要な「競技力」「知的能力」「生活力」の向上、子どもたちおよび青少年への安全・安心な環境での教育の展開、エリート選手の育成、コーチの育成も行う。

- ・ 2020～2021年度は、新型コロナウイルスの感染拡大により、スポーツスクールの開校予定も延期を余儀なくされた。2022年度は、開校準備が進んでいくことから、現地とも協議し支援体制や支援方法を検討して実施、引き続き継続事業とする。

スポーツスクールの運営支援

支援内容	支援対象地区	支援対象者	支援日程
スポーツ スクール運営	ブータン王国 公立4校選定	アーチェリー、空手、 テコンドー、陸上の 各競技者	コロナ禍で具体的支援に至らず。協議継続。
備考	【協働者（機関）】 ブータン王国教育省、ブータンオリンピック委員会、学校法人 国際学園		

(4) エリトリア国・ブータン王国・ミャンマー連邦共和国におけるスポーツ大会開催支援

経緯：当該国におけるスポーツ文化の振興・発展に努めるべくスポーツ大会の開催を支援する。支援を実施する大会については、各国オリンピック・パラリンピック委員会、各競技連盟および各関係機関からの要請又は協議により決定する。

- ・ 2021年度は、2020年度に引き続き支援してきた各国での大会が新型コロナウイルスの感染拡大の影響から概ね中止、延期、或いは以前と異なる方法での実施となった。
- ・ ブータン王国では、コロナ渦の中で実現可能な新しいスポーツ大会のカタチとして、ブータン国際マラソン（ブータンオリンピック委員会主催）が2021年2月にバーチャル形式で開催された。
- ・ 2021年4月、ブータンパラリンピック委員会は、中部から東部地区に渡る4県にて第2回パラリンピック・フェスティバルを開催し7校計1543名の生徒が参加、パラスポーツを体験する機会を得た。2021年10月、ブータンオリンピック委員会は、ガサ県にてオリンピックデーを開催、500名の生徒が参加しオリンピックムーブメントを体験した。
- ・ スポーツ大会開催支援の概要

支援内容	支援対象地区	支援対象者	備考
スポーツ大会 開催支援	エリトリア国 ブータン王国 ミャンマー連邦共和国	大会参加者	要請或いは協議により決定
備考	<b>【協働者（機関）】</b> 学校法人国際学園 <b>【2021年度実績】</b> ブータン国際マラソン（ブータン） ブータン・パラリンピック・フェスティバル（ブータン） オリンピックデー（ブータン）		

(5) エリトリア国・ブータン王国・ミャンマー連邦共和国におけるアスリートの大会参加支援

経緯：当該国アスリートの国際大会参加の際の支援を実施する。支援を行うアスリートは、各国オリンピック・パラリンピック委員会、各競技連盟および各関係機関からの要請又は協議により決定する。

- ・ 2021年度は、当該国アスリートが出場する国際大会の多くが、2020年度に続き新型コロナウイルスの感染拡大により中止・延期となった。
- ・ 「24時間テレビ」チャリティ企画からブータンパラリンピック委員会宛に寄贈されたバスケットボール用車いす5台は、新型コロナウイルスの感染拡大の影響から輸送ルートが閉されたため輸送が出来なかった。2022年度に再開された後、ブータンパラリンピック委員会と協議の上で届ける予定。

アスリート大会参加支援の概要

支援内容	支援対象地区	支援対象者	備考

アスリートの大会参加支援	エリトリア国 ブータン王国 ミャンマー連邦共和国	当該国アスリート	要請或いは協議により決定
備考	【協働者（機関）】 学校法人 国際学園		

### Ⅲ 子どもたちや青少年の国際相互理解の促進と健全な育成のための支援事業

#### 1 方針

スポーツ交流を通じ、エリトリア国、ブータン王国、ミャンマー連邦共和国との国際相互理解を図るため、同国より陸上競技をはじめ各スポーツにおいて才能のある高校生・大学生の留学受け入れを他の支援者とともに協働して実施する。

上記3カ国については、2020年東京オリンピック・パラリンピック事前キャンプ協定を締結しており、神奈川県、小田原市、箱根町、大磯町と協働で受け入れを実施していく。

尚、ブータン王国に於いては、2026年イタリアのミラノ／コルティナで開催される冬季オリンピック・パラリンピックの初参加並びに初出場を目指すため、選手発掘から選手育成を行う協働プロジェクトを立ち上げ実施する。

また、スポーツだけでなく異文化理解・友好関係の構築を目的とするイベントの開催や、それらを目的とする学生の短期受け入れも実施する。

#### 2 支援事業の概要

##### (1) エリトリア留学生（高校生・大学生）の受け入れ

経緯：エリトリア国より、陸上競技およびバスケットボールに才能があり、かつ学習意欲の高い高校生を日本へ留学させ、最新のスポーツ科学を取入れたトレーニングを提供することにより、その才能を伸ばす。それとともに日本の後期中等教育を受けさせることにより、日本・エリトリア両国の友好に貢献できる人材を養成する。陸上においては、オリンピック出場を目指す選手として育成をする。一方、留学生がクラスに入ることにより、日本人生徒は外国、特にアフリカをより身近に実感でき、国際的視野が広がることが期待できる。

- ・ 2020年度に招聘を予定していた第三期エリトリア奨学高校生（陸上競技高校生男女4名＋バスケットボール競技男子2名、計6名の新規受入）は、新型コロナウイルスの感染拡大の収束が見込まなかったため今年度も渡航が叶わなかった。ただし、受け入れ予定校と連携し通信教育の形でレポート等の課題を提供、待機中の留学生たちは現地で取り組みを継続している。留学生ビザの発行に伴い1日も早く来日してもらえよう受け入れ準備を行う。
- ・ 2022年度に日本への渡航が可能になり次第、上記6名を招聘する。
- ・ 2021年3月、星槎国際高校湘南より1名が卒業、星槎道都大学へ進学。同年9月、星槎道都大学より1名卒業、11月星槎グループに就職し、国際部および陸上競技関連の職員として勤務を開始した。
- ・ 新規の候補者選定に関しては、同国陸上競技連盟に候補者のリストアップを依頼しているが、こちらも新型コロナウイルスの影響で遅れており、次年度に継続とする。

留学受け入れの概要

支援内容	支援対象地区	支援対象者	支援日程
留学	エリトリア国 文化スポーツ庁 陸上競技連盟 バスケットボール連盟	(継続) 高校生・大学生 5名 (新規) 高校生 6名	・2019年より継続 ・新規留学生は渡航が可能になり次第招聘 ・次年度候補生選定は後期実施予定
備考	<p><b>【受入れ校】</b> 学校法人 国際学園 星槎国際湘南、星槎大学、学校法人 北海道星槎学園 星槎道都大学</p> <p><b>【協働者（機関）】</b> エリトリア国文化スポーツ庁、同オリンピック委員会および各競技連盟、学校法人国際学園、公益財団法人日本陸上競技連盟、公益財団法人日本オリンピック委員会</p> <p><b>【実績】</b> 2017年度 高校・大学留学生の受け入れを継続実施。これまでエリトリアより5名を受け入れている。</p> <p>2019年度 1名が高校を卒業し星槎大学へ進学。</p> <p>2021年度 1名が高校を卒業し星槎道都大学へ進学。 星槎国際高校湘南に2名、星槎道都大学に1名、星槎大学に1名が在籍。 1名が9月に星槎道都大学を卒業、11月より星槎グループ職員として勤務を開始。</p>		

(2) ブータン留学生（高校生・大学生）の受け入れ

経緯：ブータン王国より、陸上・アーチェリー・射撃・柔道に才能があり、かつ学習意欲の高い高校生・大学生を日本へ留学生として受け入れる。優れたトレーニング環境を提供することにより、その才能を伸ばす。それとともに日本の後期中等教育を受けさせることにより、日本・ブータン両国の友好に貢献できる人材を育成する。いずれの競技においても、オリンピック出場を目指す選手として育成をする。将来的には、日本で取得した学歴をもとに世界に羽ばたく人材を育成する。選定については、現地オリンピック委員会との協議の上行う。

- ・2021年度は、在籍中の星槎大学1名（陸上短距離）、星槎道都大学2名（柔道）の受け入れを継続した。尚、星槎国際湘南2名（アーチェリー）は、2021年3月卒業し帰国した。
- ・次期受け入れ留学生については、ブータンオリンピック委員会および各競技連盟と競技の上候補者を選定する。

留学生受け入れの概要

支援内容	支援対象地区	支援対象者	支援日程
------	--------	-------	------



留学	ブータン(MoU 締結後ブータンオリンピック委員会と協議の上決定)	(継続) 大学生 3 名 (新規) 後日決定	2018 年より継続 後日決定
備考	<p><b>【受入れ校】</b> 学校法人 国際学園 星槎国際湘南、星槎大学、学校法人北海道星槎学園 星槎都大学</p> <p><b>【協働者（機関）】</b> ブータンオリンピック委員会および各競技連盟、学校法人 国際学園、学校法人 北海道星槎学園、公益財団法人日本陸上競技連盟、公益財団法人日本オリンピック委員会、公益社団法人全日本アーチェリー連盟、公益財団法人全日本柔道連盟、公益財団法人全日本空手道連盟、公益財団法人日本卓球協会、公益財団法人日本水泳連盟等</p> <p><b>【実績】</b></p> <p>2018 年度 陸上 1 名・アーチェリー 2 名、星槎国際湘南で受け入れ開始。</p> <p>2019 年度 星槎国際湘南から 1 名卒業、星槎大学へ進学。 新規柔道 2 名、星槎道都大学で受け入れ開始。</p> <p>2020 年度 星槎国際湘南 2 名卒業、帰国。</p>		

(3) ミャンマー留学生（高校生）の受け入れ

経緯：2018 年 4 月にミャンマーオリンピック委員会と 2020 年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の事前キャンプ協定を締結したことによって、エリトリア、ブータン同様に支援事業を実施。2019 年より空手競技で高校留学生の受け入れを開始した。

- ・ 新規受け入れも空手競技高校生を対象とし、2020 年 2 月に現地で面談等を実施した。男女 2 名の新規受け入れを決定したが、新型コロナウイルスの感染拡大、また同国の政情の変化による影響もあり、2020 年度、並びに 2021 年度中の渡航は叶わなかった。
- ・ 待機中の留学生については、通信教育の形でレポート等に取り組んでもらい、状況を見ながら 1 日も早く来日してもらえよう準備を行なっている。
- ・ 2022 年度に日本への渡航が可能になり次第、上記 2 名を招聘する。
- ・ 次年度候補者選定に関しては、後期に実施予定。

留学生受け入れの概要

支援内容	支援対象地区	支援対象者	支援日程
留学	ミャンマー (保健スポーツ省・オリンピック委員会、各競技連盟など)	(継続) 高校生 3 名 (新規) 高校生 2 名	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2017 年より継続</li> <li>・ 新規留学生は渡航が可能になり次第招聘</li> <li>・ 次年度候補生選定は後期実施予定</li> </ul>

備 考	<p>【受入れ校】</p> <p>学校法人 国際学園 星槎国際湘南、学校法人 北海道星槎学園 星槎道都大学</p> <p>【協働者（機関）】</p> <p>ミャンマー保健スポーツ省、同オリンピック委員会および各競技連盟、学校法人国際学園、公益財団法人日本オリンピック委員会、公益財団法人全日本空手道連盟、神奈川県、小田原市、箱根町、大磯町</p> <p>【実績】</p> <p>2019年度</p> <p>空手3名の高校生受け入れを開始</p>
-----	--

(4) エリトリア国、ブータン王国、ミャンマー連邦共和国の2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の事前キャンプ受け入れ

経緯：2016年にエリトリア国、2017年にブータン王国、そして、2018年にミャンマー連邦共和国と上記大会の事前キャンプ協定を締結した。当該国と調整の上、事前キャンプを開催年に向け実施していく。

- ・ 2020年に実施予定とされていた東京オリンピック・パラリンピック大会が1年の延期の上で2021年に開催され、当該国の事前キャンプ受け入れ準備を行なったが、エリトリア国とミャンマー連邦共和国の2カ国はコロナ感染拡大の影響から事前キャンプを実施せずオリンピックへ直接参加となった。ブータン王国については、オリンピック大会ではアーチェリー代表、パラリンピック大会では陸上砲丸投げ2名、車いすアーチェリー1名が星槎箱根キャンパスを中心に神奈川県での事前キャンプを実施し、世界こども財団がそのコーディネートをを行った。
- ・ ブータンに加え、事前キャンプを実施しなかったエリトリア、ミャンマーに対しても、選手村滞在中にオリンピック選手団の支援を実施した。

事前キャンプ受け入れ支援の概要

支援内容	支援対象地区	支援対象者	支援日程
事前キャンプ受け入れ	エリトリア国 ブータン王国 ミャンマー連邦共和国	当該国 オリンピック選手団	参加・出場支援 事前キャンプ：2021年7月（オリンピック）、8月～9月（パラリンピック）
備 考	<p>【受入れ場所】</p> <p>星槎箱根キャンパス、星槎レイクアリーナ箱根、星槎道都大学など</p> <p>【協働者（機関）】</p> <p>各国オリンピック委員会および各競技連盟、学校法人 国際学園、学校法人 北海道星槎学園、公益財団法人日本陸上競技連盟、公益財団法人日本オリンピック委員会（JOC）、公益財団法人全日本空手道連盟、公益財団法人日本水泳連盟、公益財団法人全日本柔道連盟、神奈川県、小田原市、箱根町、大磯町</p>		

(5) パラリンピック参加に向けての支援

経緯：当該国は、オリンピックに比して、パラリンピックへの参加に向けた基盤がまだまだ整備されていない側面がある。広く共生社会の実現を目指す上でもパラリンピックへの道を切り拓くための支援が必要である。

- ・ 当該国の東京パラリンピック大会へ向けてアスリートの発掘、育成、および環境整備、出場資格獲得への支援を継続して行った。
- ・ 2021年度、東京パラリンピック大会にブータン王国は、同国史上初参加、陸上砲丸投げ選手男女各1名（計2名）が正規出場を果たした。また、車いすアーチェリーからは男子選手1名が特別枠で出場した。エリトリア、ミャンマーにも候補選手がいたものの、今回は参加資格を得られなかった。
- ・ オリンピック選手と同様、各自治体と協働し事前キャンプの受け入れを実施した。

#### パラリンピック参加に向けての支援の概要

支援内容	支援対象地区	支援対象者	備考
パラリンピック支援	エリトリア国 ブータン王国 ミャンマー連邦共和国	身体に不自由を抱えている選手 知的障害を抱えている選手	参加・出場支援 事前キャンプ：2021年8月～9月実施
備考	<b>【受入れ場所】</b> 星槎箱根キャンパス、星槎レイクアリーナ箱根、星槎道都大学など <b>【協働者（機関）】</b> 各国パラリンピック委員会および各競技連盟、学校法人 国際学園、学校法人 北海道星槎学園、公益財団法人日本陸上競技連盟、日本パラリンピック委員会（JPC）、公益財団法人全日本空手道連盟、公益財団法人日本水泳連盟、公益財団法人全日本柔道連盟、神奈川県、小田原市、箱根町、大磯町		

#### (6) 冬季オリンピック・パラリンピック参加に向けての支援

経緯：ブータン王国の未来を考え、広く共生社会の実現を目指すために、冬季オリンピック・パラリンピックへの道を切り拓くための支援が必要である。そのため、ブータン王国の2026年ミラノ・コルティナ冬季オリンピック・パラリンピック大会参加に向けての基盤整備を行う。初参加・初出場に向けて冬季アスリート選出と育成を行い、環境整備、出場資格獲得への支援を実施する。

- ・ 2021年度は、2020年度に続けて新型コロナウイルスの影響により現地渡航が叶わず、具体的な支援には至らなかったが、2022年度も継続的に支援内容を協議していく。

#### 冬季五輪参加に向けての支援の概要

支援内容	支援対象地区	支援対象者	備考
冬季オリンピック・パラリンピック支援	ブータン王国	当該国のオリンピック候補となり得る可能性のある選手など	現地訪問の際の聞き取り並びに調査を実施

備 考	<p><b>【受入れ場所】</b> 星槎国際札幌・帯広他北海道地区、星槎箱根キャンパス、星槎レイクアリーナ箱根、星槎道都大学など</p> <p><b>【協働者（機関）】</b> ブータンオリンピック委員会および各競技連盟、学校法人 国際学園、学校法人 北海道星槎学園、公益財団法人全日本スキー連盟、公益財団法人日本スケート連盟、公益社団法人日本ボブスレー・リュージュ・スケルトン連盟、特定非営利法人日本障害者スキー連盟、一般社団法人日本車いすカーリング協会、日本オリンピック委員会、日本パラリンピック委員会、日本パラリンピック委員会など</p>
-----	--

(7) 神奈川県、小田原市、箱根町、大磯町、星槎グループとの協働事業「SKY プロジェクト」への参加支援

経緯：2017年度よりスタートしたSKY プロジェクトは、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会終了までの間、継続して行う。実施時期は、SKY プロジェクト担当者会議で県および市町の要望に応えるよう継続して実施していく。交流内容は、留学生と一緒に駆けっこなど運動や留学生の母国についての紹介をする。また、保護者・地域の方々と交えた料理教室を予定している。

- ・ 2018年度、2019年度共に留学生と地域の小中学生との交流が大変好評であったが、2020年1月に幼稚園でのプログラムを行って以降、新型コロナウイルスの感染拡大により学校での対面での交流事業は実施できていない。
- ・ 2020年度、東京オリンピック・パラリンピック大会の1年延期が決定して以降、2021年にかけて、新型コロナウイルス感染予防を徹底し、安心・安全を確保した事前キャンプ受け入れ環境と体制と整備を行なった。
- ・ 2021年度、東京オリンピック・パラリンピック大会開催に伴い、当該国への機運醸成動画を作成した。また、共生社会の実現に向けて、心のバリアフリーを推進するため、VR を活用したパラスポーツ体験会やユニバーサルマナー検定の実施、指さし会話帳を作成し配付を行なった。また、事前キャンプの間、ブータン王国選手団による地元の子供たちとのオンラインでの交流事業をSKY プロジェクトと連携し実施した。

SKY プロジェクト参加支援の概要

支援内容	支援対象地区	支援対象者	備 考
SKY プロジェクトへの支援	エリトリア国 ブータン王国 ミャンマー連邦共和国	神奈川県内の主に大磯町を中心とした、保育園、小学校、中学校の園児・児童・生徒	2021年度：オリンピック、パラリンピック事前キャンプ（7月～8月に実施）
備 考	<p><b>【協働者（機関）】</b> 神奈川県、小田原市、箱根町、大磯町、学校法人 国際学園</p> <p><b>【2021年度実績】</b> 箱根町：湯本こどもクラブ、箱根こどもクラブ、きんときクラブ、大磯町立たかとり幼稚園等とオンライン交流を実施</p>		

(8) SEISA AFRICA ASIA BRIDGE (SAAB)の開催

経緯：世界子ども財団、学校法人国際学園共催の上記イベントを今年度も継続して開催する。目的は、アフリカ、アジアの国々、太平洋の島国を知り、お互いを認め合い、そして、つながる“架け橋”となることである。単にイベントではなく、日常の教育活動に世界中の人々が笑顔で暮らせる共生社会の実現に向け、一人ひとりが出来ることから考え、お互いの意見を発表し、さらに発展することを行っている。

- ・ 2020年度に行われた本事業（第6回）が、2021年ユネスコ / 日本ESD賞国内推薦事業に選定された。
- ・ 第7回目を迎える2021年度は、2020年度に引き続き、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、オンラインを中心に実施した。4チャンネル（メイン会場チャンネル、JICA 横浜会場チャンネル、高校と大学の連携チャンネル、日本全国連携チャンネル）を同時生配信した。ニューヨーク、ウガンダ、セネガル、ミャンマーおよび日本全国40拠点、また日本中の各家庭をオンラインで繋いだ。26カ国から約2万7千人のアクセスがあった。

#### SAAB 開催支援の概要

支援内容	支援対象地区	支援対象者	備考
SAAB 2021の開催	国内およびアフリカ、アジアを中心とした国々	来場者および視聴者	11月13日開催
備考	<b>【協働者（機関）】</b> 学校法人 国際学園、一般社団法人 星槎グループ、JICA 横浜、UNDP（国連開発計画）他 <b>【後援（機関）】</b> アフリカ各国の駐日大使館、外務省、神奈川県、横浜市、小田原市、箱根町、大磯町、神奈川県教育委員会、横浜市教育委員会、JICA 他 <b>【実績】</b> 2015年より毎年開催		

#### (9) ブータンロイヤル・ティンプー・カレッジ（RTC）の学生招聘

経緯：星槎大学と姉妹校であるロイヤル・ティンプー・カレッジとの協定に基づき、「STARプログラム」として短期間の学生の受け入れを実施。日本文化や日本の最新技術に触れ教養を高めると同時に、ブータン文化を発信することで双方の文化理解、友好関係の構築を狙いとし、例年1月と11月に実施している。11月の受け入れの際には、SEISA Africa Asia Bridge (SAAB) 時にも学生を招聘している。

- ・ 2021年度、2022年度は新型コロナウイルスの影響で延期とした。実施日程については、現地担当者と状況を見ながら協議を行う。

#### ロイヤル・ティンプー・カレッジ学生招聘の概要

支援内容	支援対象地区	支援対象者	備考
------	--------	-------	----

ロイヤル・ティンパー・カレッジの学生の招聘	ブータン王国	ロイヤル・ティンパー・カレッジの学生、職員	【STAR プログラム】 延期 【SAAB】 招聘せず
備考	【協働者（機関）】 学校法人 国際学園 星槎大学		

## IV 子どもたちや青少年の自立支援事業

### 1 方針

開発途上国の子どもたち、その中でも特に弱い立場にいる孤児の自立を支援するため、他の支援者とともに支援活動を実施する。

### 2 支援事業の概要

- (1) バングラデシュ、アグラサーラ孤児院に支援事業を実施し孤児たちが将来自立できるようにする。
- 株式会社矢部プロカッティングの海外生産拠点設立のニーズと、アグラサーラ孤児院のニーズを結びつけ、縫製工場建設を進めてきた。職業訓練をすすめ、当該工場での就業機会提供、孤児院自立運営に寄与することを目的として、世界こども財団は両者の窓口として継続的に取り組んできた。
  - 工場の建設含め準備は完了していたものの、2020年度から2021年度にかけ、バングラデシュの縫製業組合からのライセンス発行等の遅れ、さらに新型コロナウイルスによるロックダウンなどが追い打ちとなり、三者での協議の結果、現地法人におけるビジネスとしての縫製業の継続は困難と判断した。2021年度後半においては、現地法人の閉鎖に向けて準備を開始、世界こども財団は両者の窓口としてサポートを行った。
  - 今後については、これまでに設立した施設等を活用して現地で可能な支援プログラムを実施するべく、引き続き協議を行っている。また、必要な手続き等における株式会社矢部プロカッティングとアグラサーラ間の窓口としての業務は今後も継続する。

#### アグラサーラ孤児院支援の概要

支援内容	支援対象地区	支援対象者	備考
孤児縫製職業訓練	アグラサーラ孤児院	孤児院の子どもたち	縫製業は閉鎖の方向
備考	【協働者（機関）】 アグラサーラ孤児院、株式会社矢部プロカッティング、学校法人国際学園		

- (2) ミャンマー国内（ネピドー近郊）孤児院に対し支援活動を実施し、将来孤児院が自律的に運営できるようにする。
- 金銭、食料等を提供することは、孤児たちが生死の窮状にある時には大切なことであり、必要不可欠なことであるが、長期的には孤児院経営を安定、自立させることが重要である。
  - 2021年度は新型コロナウイルスの影響およびミャンマーの国内情勢もあり、具体的な支援には至らなかったが、現地関係者との協議を継続しており、引き続き先方のニーズを確認し、202

2年度も継続事業とする。

#### ミャンマー国内孤児院支援の概要

支援内容	支援対象地区	支援対象者	備考
孤児院の分析および運営・経営候補者の研修	ミャンマー国内孤児院	孤児院の子どもたち	—
備考	【協働者（機関）】 サマ・タウン孤児院、学校法人国際学園		

(3) アジア地域で、知的発達障害のある子どもとその家族を教育・医療・福祉の面で支援する団体を顕彰し、その活動を激励する。

- ・ 知的障害のある児童の教育に尽力し、成果を挙げている個人、団体を顕彰することにより、当該活動を支援するとともに、社会的認知を進め、環境改善につなげていく取組みである。
- ・ 2021年度は11月15日から18日にかけて、フィリピンをホストにアジア知的障害連盟（AFID）の総会が開催され、日本、シンガポール、フィリピンの3団体に Star Raft Award（星槎賞）を授与した。

#### ・ 支援の概要

支援内容	支援対象地区	支援対象者	備考
Star Raft Award の提供	アジアの発展途上国	教育・医療分野の関係者	11月15日～18日 AFID 総会時顕彰
備考	【協働者（機関）】 アジア知的障害連盟（AFID：Asian Federation on Intellectual Disabilities） 学校法人国際学園		

## V 前号に掲げるもののほか、この財団の目的を達成するために必要な事業

### 1 方針

前号I～IVの目的を達成するために、以下の事業を実施する。

### 2 事業の概要

#### (1) FGC ニュースの刊行

- ・ 世界こども財団の活動を広く紹介し、より多くの理解と協力を得るための広報活動の一環として、「FGC ニュース」を刊行、配布する。刊行した FGC ニュースは、新規会員や寄付の募集ツールとして活用する。
- ・ 2020年度は、6回刊行した。
- ・ 2021年度は、東京オリンピック・パラリンピック大会に伴い刊行予定が変更され、特別号を含めて5回刊行した。
- ・ 海外からの読者やサポーターに対して情報を分かり易く且つタイムリーに発信するため日英での

刊行を行った。

#### FGC ニュース刊行の概要

事業内容	配布対象者と方法	備考
FGC ニュース の刊行	世界こども財団の会員および協力者へ郵送 星槎グループの全国の事業部を通じて幅広く配布	刊行：年5回（隔月） ／通常年6回

#### (2) ソーシャルメディアによる情報発信

- ・ 2020年度より既存 Facebook をより活性化させた。日英同時配信することで、世界こども財団の活動に於ける情報発信を一度に、且つタイムリーに、そして、より多くの人に広めることとし、2021年度も継続した。
- ・ Facebook に連動し Instagram を運用、写真や動画など、視覚的な情報発信に特化し、若い世代や女性のユーザーに世界こども財団の情報が届くようにした。
- ・ 2021年度は、オリンピックやパラリンピック等、海外情報にも目を向け、多岐に渡す情報発信を継続して実施した。

#### ソーシャルメディアの概要

事業内容	アドレス等	備考
Facebook	<a href="http://goo.gl/eDCa6W">http://goo.gl/eDCa6W</a>	2020年度より継続
Instagram	<a href="https://www.instagram.com/fgc_seisa/">https://www.instagram.com/fgc_seisa/</a>	2020年度より継続

#### (3) 世界こども財団活動報告会の実施

- ・ 個人、法人会員をはじめ世界こども財団の活動に賛同・協力いただいている方に対し、「活動報告会」を実施し、協力者への説明責任を果たすとともに、日頃の感謝を伝える場を設ける。活動報告は前事業年度の活動を総括し、新年度の活動方針を説明する。
- ・ 例年、前年度の活動報告を翌年度1月に開催しているが、2021年1月時点では多くの人が集まる会の開催が困難であったため、書面での案内・報告に変更した。

#### 世界こども財団活動報告会の概要

事業内容	対象者	備考
活動報告会の 実施	世界こども財団の会員および協力者	2021年1月 書面にて報告

#### (4) その他各国への支援

- ・ 2020年度より、新型コロナウイルスの感染拡大の状況下で困難を抱えながらも草の根の活動を続けるアフリカの団体を支援し、アフリカの南アフリカ共和国、およびマラウイ共和国において寄付を行い、その活動を支援した。新型コロナウイルスの影響がある中でも、ネットワークを活か



し、信頼できる協働者の協力を得ることで有意義な支援ができることがわかった。

- ・ 2021年度も上記のマラウイの病院への支援を継続したほか、さらに地域を広げ、ブルキナファソ、サントメプリンシペ、ガンビアにおいて、現地の小学校やこどもたちへの支援を実施した。

#### 支援の概要

支援内容	支援対象地区	支援対象者	支援内容
新型コロナウイルスの感染拡大に関連する各国の草根活動支援	マラウイ共和国	Embangweni の病院のスタッフおよび患者	2021年2月、9月：昨年引き続き Embangweni Mission Hospital に寄付を実施、コロナ対策で過酷な状況下で働くスタッフの環境整備に活用。
	ブルキナファソ	現地のこどもたち	2021年6月：現地を訪問中のドイツのアマチュア無線家を通じて支援、こどもたちへの自転車を贈呈
	サントメ・プリンシペ民主共和国	現地小学校および児童	2021年9月：現地を訪問中のチェコのアマチュア無線家グループを通じて支援、学校の備品やこどもたちの日用品を寄贈
	ガンビア共和国	現地小学校	2021年11月：現地を訪問中のフランスのアマチュア無線家グループを通じて支援、小学校の公衆衛生に寄与するためトイレの補修を実施。また、井戸の建設のプロジェクトも進行中。

#### (5) 日本国内で発生した災害等への支援

- ・ 令和2年7月豪雨（熊本県）、首里城焼失（沖縄県）に対し、2020年より全国で募金活動を展開。令和2年7月豪雨への支援金は2021年11月、人吉市教育委員会に被災したこどもたちのための奨学基金の一部として贈呈した。首里城支援については継続中。

#### 支援の概要

支援内容	支援対象地区	支援内容	備考
令和2年7月豪雨復興支援	熊本県	令和2年7月豪雨において甚大な被害を受けた地域の復興へ向け、緊急募金活動を展開	2021年11月、人吉市に贈呈
首里城焼失再建支援	沖縄県	2019年10月の首里城焼失について、今後の再建へ向けて緊急募金活動を展開	継続中